

令和4年度
第1回
代議員会

<http://shochueiken.com/>



岐阜県小中学校英語研究部会

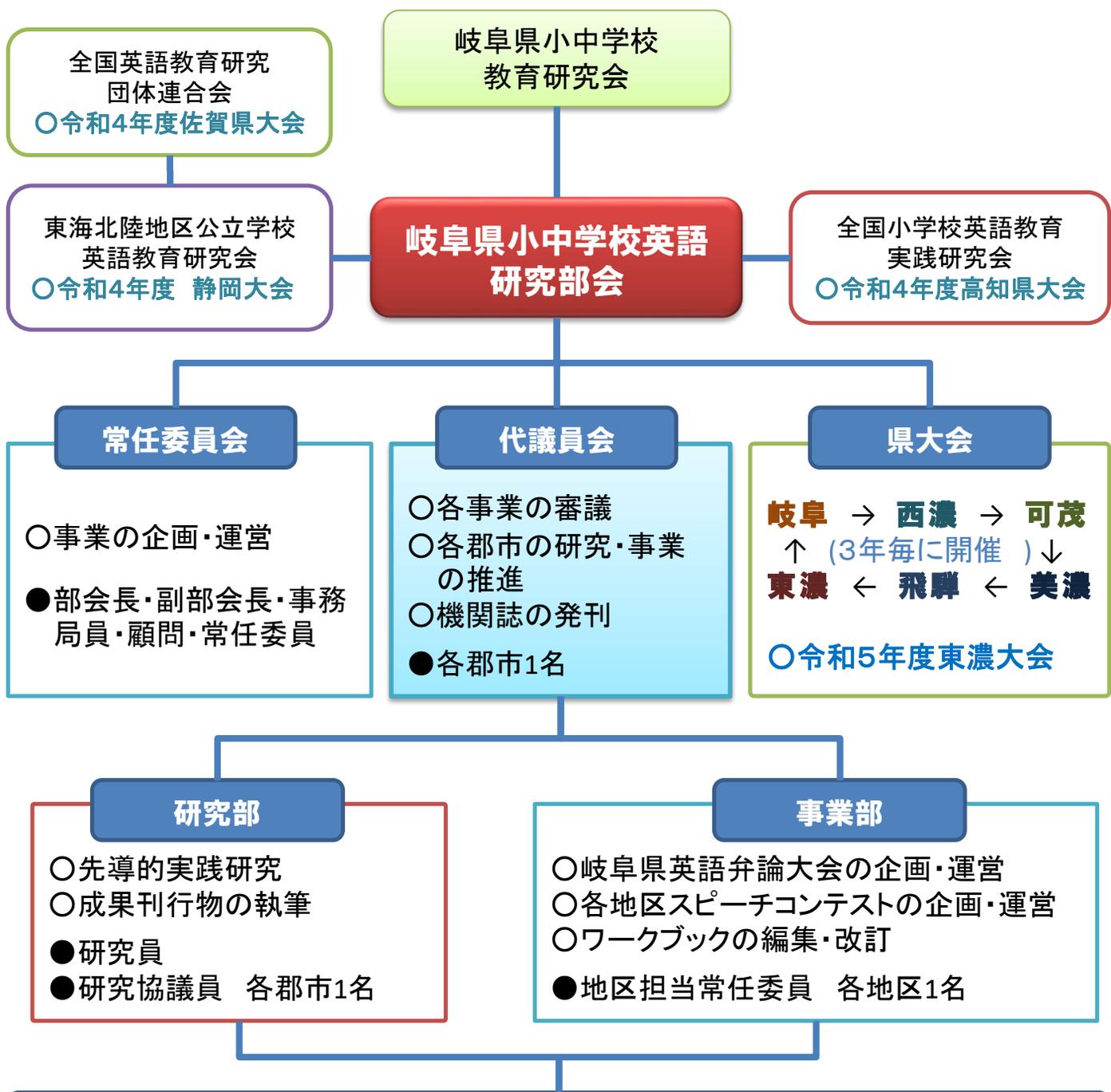
第1回代議員会

令和4年5月18日(水)

*Zoomによるリモート開催

時間	内容・会場
9:30	ミーティング開始
9:45	司会【長瀬 友洋 関市立緑ヶ丘中学校】
	1 部会長あいさつ(5分) 【折戸 靖仁 岐阜市立藍川中学校】
	2 本年度の研究(15分) 【小学校:西脇 知史 大垣市立北小学校】 【中学校:田中 大輔 関市立下有知中学校】
	3 本年度の事業内容(5分) 【石黒 崇人 各務原市立蘇原中学校】
	4 予算,旅費など(5分) 【堀部 幸嗣 坂祝町立坂祝中学校】
	5 本年度の活動(5分) 【長瀬 友洋 関市立緑ヶ丘中学校】
	6 その他
10:30	終了

岐阜県小中学校英語研究部会 (小中英研) 組織



地区名	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区
市郡名	岐阜市 羽島市 各務原市 山県市 瑞穂市 本巣市 羽島郡 本巣郡	大垣市 海津市 養老郡 不破郡 安八郡 揖斐郡	関市 美濃市 郡上市	美濃加茂市 可児市 加茂郡 可児郡	多治見市 土岐市 瑞浪市 恵那市 中津川市	高山市 下呂市 飛騨市 大野郡

岐阜県小中学校教育研究会 岐阜県小中学校英語研究部会 会則

(名称)

第 1 条 本会は、岐阜県小中学校教育研究会 小中学校英語研究部会（略称 県小中英研）と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、岐阜県小中学校の英語教育推進のための事業及び研究交流を行うことを目的とする。

(会員)

第 3 条 本会の会員は、岐阜県内の小中学校、或いは他の教育機関に勤務し、英語教育の携わっている者、並びにこの会の目的に賛同して入会を希望する者とする。

(事業)

第 4 条 本会は、第 2 条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 研究大会の開催及び大会への援助
- 2 研究調査と研究内容の相互交流
- 3 中学生英語スピーチコンテストの開催
- 4 研究成果のまとめと成果刊行物・機関誌の発行
- 5 全国英語教育研究団体連合会等の研究団体への参加
- 6 その他、目的を達成するために必要なこと

(役員)

第 5 条 本会には、次の役員を置く。

部会長、副部会長（若干名）、事務局員（主務者、研究部長、研究副部長、事業部長、事業副部長、書記、会計）、顧問（若干名）

(役員の仕事)

- 第 6 条
- 1 部会長は、本会を代表し会務を総理する。
 - 2 副部会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
 - 3 事務局員は、本会の会務を処理する。
 - 4 顧問は、本会が円滑に運営されるよう助言をする。

(役員を選出)

第 7 条 本会の役員は、会員のうちから次の方法で選出する。

- 1 部会長、副部会長、事務局員、顧問は、代議員会で選出する。
- 2 会長には、小中学校長をもって充てる。
- 3 副部会長には、次期県大会開催地区の会長及び小学校長 1 名を含むことを原則とする。
- 4 顧問は、県内各教育機関、学識経験者の中から適当と思われる者を充てる。

(役員の仕事)

第 8 条 役員の仕事は 1 年とするが、再任を妨げない。ただし、主務者については 1 回までの再任を原則とする。

(常任委員)

第 9 条 常任委員は、特別常任委員、専任常任委員（研究部常任委員・事業部常任委員）、地区常任委員の外、監事、評議員、及び地区顧問を充て、会長が指名した後、代議員会の承認を得る。ただし、地区常任委員は、第 1 回代議員会において互選の上、選出する。

- 2 評議員は、本会を代表して岐阜県小中学校教育研究会委員を兼ねる。
- 3 地区顧問は、地区ごとに開催されるスピーチコンテストの責任者を務める。

4 特別常任委員は、必要に応じて会長が指名することができる。

(機関)

第10条 本会には、次の機関を置く。

・代議員会 ・役員会 ・常任委員会 ・研究協議員会

(代議員会)

第11条 代議員会は、本会の議決機関であって、各郡市より1名ずつ選出された代議員と本部役員、事務局員、常任委員で構成し、年2回部会長が招集するほか、必要のある時には臨時に開くことができる。

2 代議員会は、次の事項を審議決定する。

- 1 会則等の改正に関すること
- 2 役員等の承認に関すること
- 3 研究及び事業の大綱に関すること
- 4 その他本会の運営に関すること

3 代議員会は、代議員数の3分の2以上の出席をもって成立し、審議事項の議決は、出席者の過半数をもって決する。ただし、会則の改正は、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(役員会)

第12条 部会長は、必要に応じて役員会を招集することができる。

(常任委員会)

第13条 常任委員会は、役員及び常任委員をもって構成し、本会の執行機関としてその目的を遂行するための会務を行う。

(研究協議員会)

第14条 研究協議員会は、役員、常任委員、研究員及び研究協議員（各郡市1名）で構成され、代議員会の決定に従って会務を推進する。

2 研究員は、会員の中から部会長が指名し、代議員会で報告する。

(経理)

第15条 本会の経費は、会費、補助金、その他の収入をもってこれに充てる。

2 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第16条 本会の事務局は、主務者の勤務する学校に置くことを原則とする。

(規定)

第17条 本会の運営に必要な規定は、別にこれを定めることができる。

付則 この会則は、昭和45年4月1日より施行する。

昭和54年4月1日 一部改正

昭和63年4月1日 一部改正

平成11年4月1日 一部改正

平成20年4月1日 一部改正

平成22年4月1日 一部改正

平成23年4月1日 一部改正

平成25年4月1日 一部改正

平成29年4月1日 一部改正

令和4年度 岐阜県小中学校英語研究部会 本部役員・事務局員・常任委員・研究員

■本部役員

部会長		折戸靖仁	岐阜市立藍川中学校
副部会長	小学校研究部担当	山下敦子	岐阜市立芥見小学校
	中学校研究部担当	山田誠志	大垣市立西部中学校
	事業部担当	後藤喜朗	岐阜市立加納小学校
	2023県大会担当	岡田海保	多治見市立陶都中学校
顧問		薄井伸一	多治見市立滝呂小学校
		鈴木恭三	多治見市立共栄小学校
		佐藤幹彦	各務原市立蘇原中学校
		田中正樹	大垣市立荒崎小学校
		渡辺英哉	美濃加茂市立古井小学校
		大坪由美	安八町立結小学校
		長谷川浩子	土岐市立駄知中学校
		岸貴彦	白川村立白川郷学園
	後藤千穂子	郡上市立口明方小学校	
■事務局員			
主務者		長瀬友洋	関市立緑ヶ丘中学校
研究部長	小学校部会	西脇知史	大垣市立北小学校
	中学校部会	田中大輔	関市立下有知中学校
事業部長		石黒崇人	各務原市立蘇原中学校
研究副部長	小学校部会	松田洋和	多治見市北栄小学校
	中学校部会	阿部聖一	土岐市立泉中学校
事業副部長		濱正人	瑞穂市立穂積北中学校
書記		永井悠介	各務原市立川島中学校
会計		堀部幸嗣	坂祝町立坂祝中学校
		大澤修平	各務原市立蘇原中学校
■常任委員			
評議員		尾石光正	中津川市立坂下中学校
監事		白橋茂紀	岐阜市立長森北小学校
		橋本文洋	可児市立蘇南中学校

地区顧問	岐阜地区担当	平 工 雅 之	本巣市立真正中学校	
	西濃地区担当	末 松 博	池田町立池田小学校	
	美濃地区担当	小 森 信 行	関市立富岡小学校	
	可茂地区担当	遠 藤 美 和	御嵩町立上之郷小学校	
	東濃地区担当	岩 井 裕 美	恵那市立東野小学校	
	飛騨地区担当	伊 藤 英 和	高山市立久々野中学校	
研究部常任委員	小学校部会G長	吉 村 知 也	池田町立温知小学校	
	中学校部会G長	高 木 恵 子	可児市立今渡北小学校	
		中 島 聡 志	岐阜市立東長良中学校	
		土 井 智 文	岐阜市立長森中学校	
		國 枝 秀 祐	大垣市立興文中学校	
		後 藤 健 一	大垣市立星和中学校	
		加 藤 晃 子	関市立旭ヶ丘中学校	
		井 森 靖 人	郡上市立八幡西中学校	
		田 森 朝 水	多治見市立笠原中学校	
山 口 隆 幸	高山市立清見中学校			
事業部常任委員	岐阜地区担当	村 地 巧 美	岐阜市立岐阜清流中学校	
	西濃地区担当	野 村 久 和	大垣市立東中学校	
	美濃地区担当	永 田 貴 大	郡上市立八幡中学校	
	可茂地区担当	若 山 圭 介	可児市・御嵩町中学校組合立共和中学校	
	東濃地区担当	土 屋 智 裕	恵那市立恵那東中学校	
	飛騨地区担当	相 津 嘉 文	高山市立国府中学校	
■研究員				
小学校部会	丹 羽 宏 美	岐阜市立長良東小学校	武 藤 恵 里 佳	関市立桜ヶ丘小学校
	濱 田 歩	可児市立東明小学校	木 下 綾 野	多治見市立小泉小学校
	前 田 賢 人	多治見市立精華小学校	石 原 文 太	中津川市立南小学校
	木 股 輝 彦	瑞浪市立明世小学校	日 下 部 晴 信	下呂市立萩原小学校
中学校部会	德 田 良 磨	岐阜市立青山中学校	宮 川 拓 也	岐阜市立陽南中学校
	和 田 亮 二	岐阜市立長良中学校	平 倉 一 輝	羽島市立桑原学園
	高 橋 智 子	本巣市立本巣中学校	松 木 耕 平	飛騨市立神岡中学校
	井 深 公 仁 彦	大垣市立赤坂中学校	杉 山 宰	下呂市立下呂中学校
	打 田 卓 生	関市立津保川中学校	長 屋 聡 臣	関市立小金田中学校
	小 川 裕 美	可児市立中部中学校	泉 香 里	郡上市立高鷲中学校
	三 品 達 也	可児市立西可児中学校	山 田 麻 衣	郡上市立白鳥中学校
中 西 俊 次	高山市立松倉中学校	千 嶋 里 英	高山市立中山中学校	

令和4年度 岐阜県小中学校英語研究部会 郡市別代議員・研究協議員・研究テーマ一覧

		代議員		研究協議員		研究テーマ
		氏名	勤務校	氏名	勤務校	
1	岐阜市	池田 大地	岐阜西中	西川 祐人	長森中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
2	羽島市	河合 楓奈	中央小	加藤 祥子	中央中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて(小)～五領域における「目指す姿」を明確にし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～(中)～五領域における学習到達目標を明確にし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
3	各務原市	宇野 彩香	蘇原第二小	細江 妃美紀	那加中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価のあり方～
4	山県市	大原 有晶	美山中	梅村 有砂	高富中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
5	瑞穂市	迫田 一輝	巢南中	飯田 望美	穂積中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
6	本巣市	藤本 桃子	真正中	石井 豊晃	糸貫中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
7	羽島郡	坪井 知美	下羽栗小	夏目 拓弥	岐南中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
8	本巣郡	栗田 玲於	北方中	土井 烈志	北方中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
9	大垣市	柳瀬 あすか	大垣西中	土井 麻由佳	星和中	「できた」「わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達度を実感させる指導・評価の在り方～
10	海津市	松岡 裕美	平田中	水谷 仁美	石津小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
11	養老郡	小野 裕継	養老東部中	田中 友揮	高田中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
12	不破郡	グリニック 美穂	表佐小	森 愛夢	関ヶ原小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
13	安八郡	都竹 侑香	登龍中	澤島 雅和	神戸中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導の在り方～
14	揖斐郡	小寺 杏奈	大野小	木俣 良紀	池田中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～主体的で対話的な学びを通して～

		代議員		研究協議員		研究テーマ
		氏名	勤務校	氏名	勤務校	
15	関市	橋本 聖也	桜ヶ丘中	張山 佳紀	小金田中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～自らを表現し、粘り強く伝え合う個と集団の育成～
16	美濃市	朝田 聖子	昭和中	高橋 加奈子	美濃中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
17	郡上市	森 優太	大和中	北浦 拓也	白鳥中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
18	美濃加茂市 加茂郡	堀部 幸嗣	坂祝中	西村 優	美濃加茂西	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
19	可児市	岩田 綾香	今渡南小	村瀬 敏美	広陵中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の在り方～
20	可児郡	小川 恭嗣	上之郷小	西原 裕貴	共和中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて
21	多治見市	安西 一貴	小泉中	南 匡彌	陶都中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
22	土岐市	大野 篤司	泉中	宮本 真実	駄知中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
23	瑞浪市	更家 希	瑞浪中	田中 拓志	瑞浪小	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～W-CCで『心』をつなぐ英語教育の実践～
24	恵那市	佐々木 健太	岩邑中	河原 大智	恵那東中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導
25	中津川市	広瀬 学	福岡中	柳瀬 芽以	中津第二中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて
26	高山市 大野郡	三輪 慎之介	中山中	下屋 湧泉	日枝中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～活動を通して習得し(思考しながら表現し)、仲間と共に高まる子どもの育成～ キーワード Learn by Doing
27	飛騨市	山本 祐也	古川中	土洞 翔輝	山之村中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～五領域における学習到達目標を明らかにし、言語活動の中でその到達を実感させる指導と評価の一体化～
28	下呂市	森 光生	小坂中	熊崎 由香	萩原北中	「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて～活動を通して習得し(思考しながら表現し)、仲間と共に高まる子どもの育成～

◆収入の部

科 目	金 額	内 訳
会 費	624,960	¥620×1,008名
前年度繰越金	0	
計	624,960	

◆支出の部

科 目	金 額	内 訳	
研究大会	報償金		
	会議費		
	旅費		
	消耗品費		
	印刷製本費		
	通信費		
	使用料及賃借料		
研究調査	報償金		
	会議費		
	旅費	200,000	研究協議員会
	消耗品費	84,960	インク代、用紙代
	通信費		
	使用料及賃借料	30,000	会場使用料
	分担金	10,000	全英連分担金
	図書購入費		
成果刊行	消耗品費		
	印刷製本費	300,000	Ways of Teaching English
	通信費		
予備費			
計	624,960		

◆収支の部

収入	支出	収支
624,960	624,960	0

研究の方向 ~目指す姿を具体的にイメージし、具現化する指導過程の在り方~

【昨年度までの取組】

令和3年度	伝え合う活動部会	
	抽出単元の単元指導計画および抽出1単位時間の展開案, 児童用ワークシート → Let's Try!(3年) Unit 4, NEW HORIZON Elementary (6年) Unit 7 パフォーマンステストおよび評価シート	
資料	Let's Try!チーム	NEW HORIZON Elementary チーム
研究	到達させたい具体的な姿のイメージ化 目指す姿にせまる指導過程の在り方	
		
令和2年度	伝え合う活動部会	
	抽出単元の単元指導計画 (抽出1単位時間の展開案作成) →Let's Try! Unit7(第4時), NEW HORIZON 5 Unit4(第8時) New HORIZON Elementary Unit7(第6時), 8(第6時)	
資料	Let's Try!チーム	NEW HORIZON Elementary チーム
研究	到達させたい具体的な姿のイメージ化 目指す姿にせまる指導過程の在り方	
		
令和元年度	Let's Try! 伝え合う活動部会	We Can! 評価部会
	抽出単元の単元指導計画 LT1-Unit4,5,8 LT2-Unit2,4,7,8	昨年度作成の評価シートの実施 「話すこと(発表)」評価シート作成
資料		
研究	到達させたい具体的な姿のイメージ化 目指す姿にせまる指導過程の在り方	到達させたい具体的な姿のイメージ化 目指す姿の到達を実感させる評価の在り方

令和元年度に、「Let's Try! 伝え合う活動部会」として、小学校3・4学年で使用する外国語活動の副教材である Let's Try!の指導案検討を行う部会を立ち上げた。これまで小学校部会で大切にしてきた「考えながら話す」場を意図的に設定するという考え方を引き継ぎ、児童にとって効果的な指導過程の在り方について検討を行った。

令和2年度は、新学習指導要領全面実施の年となり、高学年では教科書会社が作成した教科書を使用しての授業が始まった。現在、岐阜県内では地区により異なる教科書を採択しており、県内で使用する3社ともに研究することが望ましいが、研究員の先生方の勤務地域から東京書籍の NEW HORIZON Elementary を取り上げて研究することとした。(ただし、扱う単元はその他2社と題材が同じものとした。)

そして令和3年度は、前年度までに作成した指導案を土台に、指導計画の改善を行った。小学校においては、英語が専門ではない学級担任が指導することも多くあると考えられたため、指示の出し方や活動方法、視覚教材やワークシートの扱い方までくわしく書き入れた指導案を作成した。また、ICTの効果的な活用方法、適切な評価の在り方などから、効果的な指導方法について検討した。

【令和4年度の部会のもち方】

令和4年度	伝え合う活動部会	
	抽出単元の単元指導計画および抽出1単位時間の展開案(児童用ワークシート) (パフォーマンステストおよび評価シート)	
資料	楽しい授業作りチーム	Here we go! / Blue sky チーム
研究	英語授業の流れ(教科書の扱い方)例 指導過程ごとの手立て	到達させたい具体的な姿のイメージ化 目指す姿にせまる指導過程の在り方

小学校高学年で外国語科が全面実施され、各社の教科書を使うようになって2年が経過した。様々な実践を通して、どの単元や単位時間でも、目指す姿にせまる指導過程の在り方を工夫した指導案を検討すると、導入の場面、展開(慣れる、楽しむ)場面、終末(発表、やりとりする)場面それぞれの指導過程において、共通したポイントや配慮するとよいことがあると分かる。そこで、本年度は、各単元や授業で、指導過程ごとで大切にしたい手立てについて検討したいと考えた。それから、New Horizon(東京書籍)以外、他の2社の教科書について、昨年度までに作成した指導案を土台に、指導計画の検討を行う。引き続き、英語が専門ではない学級担任が指導することが多くあることを考慮し、指示の出し方や活動方法について分かりやすい指導案を検討していきたい。視覚教材やワークシートの扱い方、ICTの効果的な活用方法、適切な評価の在り方などについても、よりよい指導方法を検討し提案できるようにしていきたい。

【指導案作成に関わって】

- ・伝え合う内容や活動が、児童にとって興味関心が高く、楽しいものであることが大切である。
- ・第1時に単元終末の活動を示し、単元の見通しをもたせる。
- ・丁寧な指導の積み重ねがあり、終末の活動に向けて児童の力が積み上がっていくようにする。
- ・音声を大切に活動をよく取り入れて作成する。単元全体を通して見ると、前半では指導者からのインプットを多めにし、終末に近づくにつれ、児童の発話が多くなるようにする。
- ・終末の活動に向けてどのように力を付けていけばよいのか、指導者が具体的にイメージできるよう、活動形態、指導者の発話例、指導の留意点等を書き入れる。(Ways.60を参照)
- ・音声を重視した活動には、音声マーク  デジタル教材の活用場面には、モニターマーク 
- 伝え合う活動には、伝え合いマーク  …児童対児童  …教師対児童
- をつけ、中心となる言語活動が視覚的に分かりやすくするようにする。

研究の方向

I はじめに

令和3年度の振り返りを基に、今年度の方向を提案します。

【R3年度の振り返り】waysNo.62p14 参照

○新学習指導要領と新教科書の趣旨や内容を念頭に置き、単元を構想するにあたって必要な事項を精選（内容のまとめり・五領域における学年の目標・単元の目標・単元の評価規準・主な言語活動における必要な力と留意点）し、『指導と評価の計画』の前文にそれらについての具体を記載したことで、到達させたい具体的な生徒の姿をイメージ化することができた。 **【研究内容（1）】**

○提案する全ての単元の評価規準を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で具体を示したり、『指導と評価の計画』の「5展開案を含む単元指導計画」内において、ICTの活用や小学校における学習内容とのつながりなどについて明記したりすることで、育成したい資質・能力を明らかにし、目指す姿に迫る具体的な指導の在り方の具体例を示すことができた。 **【研究内容（2）】**

○NEW HORIZONの全単元の終末に実施することを想定したパフォーマンステストを作成するにあたり、Communicative Activity部会とテスト部会が連携を密にする場面が多く見られた。この営みはまさに「指導と評価の一体化」の実現の第一歩であり、パフォーマンステストの提案は、生徒に到達を実感させるための質の高い評価の在り方を示すことにつながった。 **【研究内容（3）】**

●令和4年度には、今回作成した『指導と評価の計画』を実行したり、「パフォーマンステスト」を活用して評価したりすることで、実証しながら改善を図る。さらに、小中英研としての学習到達目標を作成し、提案することで、さらなる「指導と評価の一体化」を図る。

これらの点を踏まえ、今年度さらに意識して作成したい点は、「意味を追い求める」ということです。下に例を挙げます。

(例)3 単元の評価規準

<ul style="list-style-type: none"> ・受け身を用いた表現の特徴やきまりを理解している。 ・各地の世界遺産について考えたことや感じたことなどを用いて伝え合う技能を身に付けている。 	<p>ALTの友人にお勧めの日本の世界遺産を紹介するために、社会的な話題(各地の世界遺産)に関して読んだことについて、特徴などの事実やその価値、自分の考えたことや感じたことを整理して<u>伝えている</u>。</p>	<p>ALTの友人にお勧めの日本の世界遺産を紹介するために、社会的な話題(各地の世界遺産)に関して読んだことについて、特徴などの事実やその価値、自分の考えたことや感じたことを整理して<u>伝えようとしている</u>。</p>
---	--	--

これは、『指導と評価の計画』の抜粋です。二重下線部に示してありますように、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、「～している」と「～しようとしている」が記載上の違いです。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』には、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、「基本的には一体的に評価することができる」と記載があることが、その根拠だと捉えています。ただの文字面の違いという捉えではなく、生徒が言語活動に意欲的に取り組むことができるように目的・場面・状況を設定し、評価規準を記述します。生徒の表現意欲を高める大切な要素の一つは、活動に対する目的意識だと思えます。「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の捉えを再確認し、目的・場面・状況の設定へとつながるようG長の先生中心にグループへ伝えていくことで、形から「意味を追い求める」ことを、今年度さらに意識した上で、作成計画を具体的にしていきます。

※これは一例です。どの作成物においても、形から「意味を追い求める」ことを意識してwaysを作成していきたいと考えています。

2 具体的方途

①R4 作成計画

【Communicative Activity 部会】※ways.62 より

NEW HORIZON	NEW CROWN
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生 Unit6～11 の『指導と評価の計画』を作成し、全 Unit の『指導と評価の計画』の改良をする。 ・全 Stage Activity の『指導と評価の計画』を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生全ての Project の『指導と評価の計画』を作成する。 ・2年生全ての Lesson の『指導と評価の計画』を作成する。

<単元及び担当者>

N/H 1年生	Unit6～11	Stage Activity 1～3
G長	1名：國枝先生	1名：高木先生
研究員	3名：	1名：
研究協議員	4名：	2名：

※指導と評価の計画改良については、Stage Activity とのつながりに一貫性をもたせるため必要であることがあれば、改良します。G長同士で交流・確認します。

N/H 2年生	Stage Activity 1～3・指導と評価の計画改良（2年生）
G長	1名：田森先生
研究員	2名：
研究協議員	3名：

※指導と評価の計画改良については、Stage Activity とのつながりに一貫性をもたせるため必要であることがあれば、改良します。

N/H 3年生	Stage Activity 1～3・指導と評価の計画改良（3年生）
G長	1名：土井先生
研究員	2名：
研究協議員	3名：

※指導と評価の計画改良については、Stage Activity とのつながりに一貫性をもたせるため必要であることがあれば、改良します。

N/C 1年生	Project 1～3
G長	1名：加藤先生
研究員	1名：
研究協議員	1名：

N/C 2年生	Lesson 1～7
G長	1名：井森先生
研究員	3名：
研究協議員	2名：

【テスト作成部会】ways.62 より

NEW HORIZON	NEW CROWN
<ul style="list-style-type: none"> ・全 Unit のパフォーマンステストを改良する。 ・中間/期末テストの見直しをする。 ・学習到達目標の作成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NEW HORIZON のパフォーマンステストを活用し、全 Lesson のパフォーマンステストを作成する。→来年度へと変更 ・学習到達目標の作成をする。

R3からR4での変更点について

- ・記載方法ですが、「パフォーマンステスト」を「単元終末に行う記録に残す評価」に変更します。以後「記録に残す評価」と記載します。R3は、各単元におけるパフォーマンステストの提案を行いました。提案内容と合うタイトルにするため、記載方法を変更します。
- ・「NEW HORIZON のパフォーマンステストを活用し、全 Lesson のパフォーマンステストを作成する。」と R3 の計画にありましたが、N/H 部会の先生方が、N/C の「記録に残す評価」問題を作成するにあたって言語材料が同じであっても、既習の語句が違うため、負担がかかりすぎてしまうことが懸念されるため、来年度に作成することにしました。

<担当者>

N/H 1年生	1学期 期末テスト又は前期 中間テスト 「知識・技能」「思考・判断表現」問題作成
G長	1名：後藤先生
研究員	1名：
研究協議員	3名：

※テストに関しては、waysNo.57～59に記載のある問題を改良するまたは、新たに作成します。多くの先生方がテスト作成時に参考となるように、テストの形式での作成ではなく、問題例として提案します。

N/H 2年生	1学期 期末テスト又は前期 中間テスト 「知識・技能」「思考・判断表現」問題作成
G長	1名：山口先生
研究員	1名：
研究協議員	3名：

※テストに関しては、waysNo.57～59に記載のある問題を改良するまたは、新たに作成します。多くの先生方がテスト作成時に参考となるように、テストの形式での作成ではなく、問題例として提案します。

N/H 3年生	1学期 期末テスト又は前期 中間テスト 「知識・技能」「思考・判断表現」問題作成
G長	1名：中島先生
研究員	1名：
研究協議員	3名：

学習到達目標作成及び改良・記録に残す評価改良	
研究副部長	1名 阿部聖一先生
研究員	1名 (N/H 部会)
研究協議員	1名 (N/H 部会)

※領域にばらつきがあるため、記録に残す評価の領域について改良するかを検討します。また、「話すこと」【発表】に関しては、「書くこと」で捉えると、どのようなパフォーマンステストが実施できるかも検討することで、多くの先生方の参考となるような学習到達目標を作成します。学習到達目標の数値目標はなくし、何を、どのように取り組むのかを記載するようにします。

<人数の合計と内訳>

G長	9名	研究員	16名	研究協議員	25名
----	----	-----	-----	-------	-----

<グループ決定方法>

- ・研究員の方は、「緑色の付箋」、研究協議員の方は「ピンク色の付箋」に①所属学校（〇〇市立〇〇学校）と②氏名（フルネーム）を記述していただき、拡大用紙に貼り、グループを決定してください。
- ・グループが決定し次第、G長の先生中心に研究討議を開始してください。

Stage Activity/Project における指導と評価の計画作成について

指導と評価の計画

【作成者: 関市立下有知中学校 田中 大輔】

単元名

第2学年 NEW CROWN
Project2

内容のまとめ

「話すこと [発表]」イ

指導の根拠

・「内容のまとめ」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2内容」の項目等を細分化したり整理したりしたもの

1 「話すこと [発表]」における第2学年の目標

日常的な話題や社会的な話題について、自分の経験や他教科等で学習したことに基づいた事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、その理由なども踏まえて、まとまりのある内容になるように構成を工夫しながら話すことができる。

学習到達目標

・今年度作成及び改良する「学習到達目標」より抜粋する。

2 Stage Activity/ Project の目標

冬休みに県内に日帰り旅行を計画している ALT が気に入るプランを提案するために、ALT の趣味趣向が分かるように food, Sightseeing, Cultural activities の3観点で質問することで情報をまとめ、根拠を明確にして ALT の理解を確認しながら提案することができる。

書きぶり

・令和2年度に作成した Ways No.61 の「単元構想図」に記載されている内容を基にして記載する。

内容面

・言語活動を行う目的や場面、状況を文言の中に記載する。

3 Stage Activity/ Project の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較級や不定詞の特徴やきまり等、提案するための表現を理解している。 ・ALT の趣味趣向を踏まえた上で、自分の考えを伝える技能を身に付けている。	冬休みに県内に日帰り旅行を計画している ALT が気に入るプランを提案するために、ALT の趣味趣向が分かるように質問することで情報をまとめ、根拠を明確にして ALT の情報について確認しながら提案することができる。	冬休みに県内に日帰り旅行を計画している ALT が気に入るプランを提案するために、ALT の趣味趣向が分かるように質問することで情報をまとめ、根拠を明確にして ALT の情報について確認しながら提案することができる。

4 主な言語活動における必要な力と留意点

【プレゼンテーション活動における留意点】

- 1 根拠となり得るものは主観のみではなく、客観的な事実も必要であると指導する。
- 2 聞き手の反応を見て、提案内容を付け加えたり削ったりすることも重要な力であることを指導する。
- 3 画像の選択のみではなく、どのタイミングで画像を提示すると有効か考えることを指導する。

留意点

・令和2年度に作成した Ways No.61 の「単元構想図」に記載されている内容を基にして記載する。
 ・主な言語活動とは、スピーチ/プレゼンテーション/ディスカッション（ディベート）の3つとする。
 ※R4 から留意点のみを記述することとする。主な言語活動を指導する際に、大前提となること、より指導に効果が出る方法等を記述する。

5 展開案を含む指導計画

時間	主な言語活動	備考	知	思	態
1	<p>■3つの修学旅行プランを読み、マークたちのグループの提案を理解する活動を通して、プラント提案のつながりを理解し、自分ならどの場所で何の活動を提案するのか話すことができる。</p> <p>①Small Talk ②I.Read,2.Listenを行う。</p> <p>Let's suggest school trip plan.</p> <p>③ ④ ⑤</p> <p>本時の課題 ・基本的に英語で記述する。(TNR10pt) ・枠線はテキストボックス二十直線(3pt)</p>	<p>展開案作成時間以外の単位時間 ・「ねらい」と「主な言語活動」のみを記載する。</p> <p>記録に残す評価を行わない時間 ・この例のまま記載する。</p> <p>小学校における学習内容とのつながり ・●を小学校想起マークとする。 ・枠線はテキストボックス直線(0.5pt) ・英語 TNR10pt, 文字 10pt</p>			
2	<p>■</p> <p>①Small Talk</p> <p>展開案 ・枠の線は1.5ptで囲む。</p>	<p>●②において、国を紹介する活動で学んだ「理由を付け加える」を思い出させ、内容面と表現面について指導する。</p>			
3 【展開案】	<p>■“city life”と“country life”についての説明を聞く活動を通して、…</p> <p>①</p> <p>Let's suggest trip plan in Gifu.</p> <p>② ③複数のペアでスピーチ練習を行う。 ④ ⑤</p> <p>I heard you like skiing. I recommend you a special place. The name is Chao. Look at this! …</p>	<p>◆③において、「音声認識機能」を活用して、正しく発音ができているかを確かめるように促す。</p> <p>ICT 活用 ※必ず記載する ・教師の立場で記述する。 ・枠線はテキストボックス丸四角(0.75pt) ・◆をICT活用マークとする。 ・文字 10pt</p>	○	○	
後日	ペーパーテスト	<p>・到達させたい生徒の姿として具体的に英文で記述する。 ・生徒同士が対話する場合は「S1」「S2」を用いる。 ・英語 TNR10pt ・枠線はテキストボックス点線(0.75pt)</p>	○	○	○

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

(注1) 主な言語活動は多くても5つまでとする。その言語活動は「個別最適な学び」か「協働的な学び」のどちらであるかを意識し、それぞれの学びを一体的に充実させる。

(注2) 主な言語活動を記載する際、主語は生徒とする。

(注3) ■…ねらい, 丸数字…主な言語活動を示す。

(注4) 記録に残す評価を行わない時間がある。その際は例のように記す。

(注5) 備考 [ICT の活用] を記載する際、文部科学省 ICT 活用教育アドバイザーが作成するホームページ「StuDX Style」を参考にする。【例…「ポジショニング機能」を活用して、一人一人の考えの変化の大きさを把握する。】

(注6) 備考 [小学校における学習内容とのつながり] を記載する際、語彙のみではなく、小学校で学習した「場面」と「表現」を想起できるように、小学校における指導内容(東京書籍 NEW HORIZON Elementary の教科書を基に)を把握する。

指導と評価の計画 【作成者：〇〇立〇〇中学校 □□□□】

単元名
第3学年 NEW HORIZON
Unit I Sports for Everyone

内容のまとめり
「話すこと [やり取り]」ア

指導の根拠
・「内容のまとめり」
とは、学習指導要
領等に示す各教科
等の「第2各学年
の目標及び内容」
の2内容を項目等
を細分化したり
整理したりした
もの

1 「話すこと [やり取り]」における第●学年の目標

日常的な話題や社会的な話題について、客観的な事実、様々な考え等に基づいた自分の意見や主張とその根拠等を、対話がより継続・発展するよう、聞き手の理解に応じて他の意見や主張を言い直すなどの工夫をしながら、5往復程度の対話で話すことができる。

学習到達目標
・小中英研作成「学習到達目標」より抜粋する。

2 単元の目標

障がい者スポーツについて理解を深め、人々を結びつけるスポーツの力について考えたり、相手のニーズに応じた提案をしたりするために、
内容を整理して、要点を捉えたり伝えたりすることができる。

内容面
・言語活動を行う目的や場面、状況を文言の中に記載する。

3 単元の評価規準

書きぶり
・令和2年度に作成した Ways No.61 の「単元構想図」に記載されている内容を基にして記載する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・want A to～や間接疑問文の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 ・英語と自分とのかかわりについて考えたことや感じたことなどを用いて伝え合う技能を身に付けている。	社会的な話題（英語と自分とのかかわり）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、聞き手の理解に応じて同意や反対をしたり、さらに付け足しをしたりして伝え合っている。	社会的な話題（英語と自分とのかかわり）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、聞き手の理解に応じて同意や反対をしたり、さらに付け足しをしたりして伝え合おうとしている。

4 主な言語活動における必要な力と留意点

【ディスカッション(ディベート)活動における留意点】

- 1 メモや書いた意見を参考にしながら話してよい。
- 2 意見を支える理由を実生活と結び付けて考える。
- 3 やり取りを円滑にする Idea Box やフレーズ集を使用してもよい。
- 4 自分の意見と違う立場の意見を予測した意見を用意しておく。意見を有利にする(より主張ができる)情報を事前に得ておく。

留意点
 ・令和2年度に作成した Ways No.61 の「単元構想図」に記載されている内容を基にして記載する。
 ・主な言語活動とは、スピーチ/プレゼンテーション/ディスカッション(ディベート)の3つとする。
 ※R4 から留意点のみを記述することとする。主な言語活動を指導する際に、大前提となること、より指導に効果が出る方法等を記述する。

5 展開案を含む単元指導計画

時間	主な言語活動	備考	知	思	態
1	展開案 ・枠の線は 1.5pt で囲む。	本時の課題 ・基本的に英語で記述する。(TNR10pt) ・枠線はテキストボックス二十直線 (3pt)			
2					
3	<p>■“city life”と“country life”についての説明を聞く活動を通して、…</p> <p>①</p> <p>Let's discuss some social problems in groups!</p> <p>②</p> <p>③複数のペアでスピーチ練習を行う。</p> <p>④</p> <p>I think country life is better. We can enjoy fresh and healthy food. There is a lot of beautiful nature. If we live there, we can help each other. ...</p>	<p>・初見の短い英文を読む活動を継続的に 行い、読む力を育成する。</p> <p>◆③において、「音声認識機能」を活用して、正しく発音 ができているかを確認する ように促す。</p> <p>ICT 活用 ※必ず記載する ・教師の立場で記述する。 ・枠線はテキストボックス丸四角(0.75pt) ・◆を ICT 活用マークとする。 ・文字 10pt</p>			
4					
5					
6					
7					
8	<p>Unit Activity</p> <p>■写真や図表を参考にしながら、要点を把握し、その内容に対する賛否や自分とグループの考えを5文程度で表現することができる。</p> <p>①</p> <p>Which is better for watching movies, DVDs or theaters?</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>We think DVDs are the best way to watch movies. First, most people can relax because they don't have to go out. (中略) Second, DVDs are cheaper than theaters. So we think this is the best way.</p>	<p>・単元を通じて、「聞き方」を掲示し、リ ピートを意識させ続ける。</p> <p>●②において、国を紹介する活 動で学んだ「理由を付け加え る」を思い出させ、内容面と 表現面について指導する。</p> <p>小学校における学習内容とのつながり ・●を小学校想起マークとする。 ・枠線はテキストボックス直線(0.5pt) ・英語 TNR10pt, 文字 10pt ※1年生部会のみとする</p>			
9					
後日	ペーパーテスト・パフォーマンステスト				

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

(注1) 主な言語活動は多くても5つまでとする。その言語活動は「個別最適な学び」か「協働的な学び」のどちらであるかを意識し、それぞれの学びを一体的に充実させる。

(注2) 主な言語活動を記載する際、主語は生徒とする。

(注3) ■…ねらい, 丸数字…主な言語活動を示す。

(注4) 記録に残す評価を行わない時間がある。その際は例のように記す。

(注5) 備考 [ICT の活用] を記載する際、文部科学省 ICT 活用教育アドバイザーが作成するホームページ「StuDX Style」を参考にする。
【例…「ポジショニング機能」を活用して、一人一人の考えの変化の大きさを把握する。】

(注6) 備考 [小学校における学習内容とのつながり] を記載する際、語彙のみではなく、小学校で学習した「場面」と「表現」を想起できるように、小学校における指導内容(東京書籍 NEW HORIZON Elementary の教科書を基に)を把握する。

学習到達目標作成及び改良・記録に残す評価改良について

各学年における学習到達目標と記録に残す評価のつながりが分かる学習到達目標（話すこと〔発表〕話すこと〔やり取り〕書くこと）の作成を提案します。記録に残す評価は、その単元における指導を表しますので、指導と評価の一体化を意識したものを作成したいと考えました。※R4 学習到達目標参照

<改良する点について>

・『指導と評価の計画』と『記録に残す評価』の「内容のまとめり」が完全には一致しない点について、すり合わせる。R3に作成したパフォーマンステストを改良し、指導と評価の計画に内容のまとめりを合わせる。

R3「指導と評価の計画」と「記録に残す評価」の内容のまとめり一覧

NEW HORIZON

◎全て一致 ○領域一致

学年	Unit	内容のまとめり		
1	Unit0 welcome to Junior High School	指導と評価の計画	記録に残す評価	
	Unit1 New School, New Friends	話すこと〔やり取り〕ア	話すこと〔やり取り〕ア	◎
	Unit2 Our New Teacher	話すこと〔やり取り〕ア	話すこと〔やり取り〕ア	◎
	Unit3 Club Activities	話すこと〔やり取り〕ア	話すこと〔やり取り〕イ	○
	Unit4 Friends in New Zealand	話すこと〔やり取り〕ア	話すこと〔やり取り〕イ	○
	Unit5 A Japanese Festival	話すこと〔発表〕イ	話すこと〔発表〕イ	◎
	Unit6 A Speech about My Brother	<R4 作成> 内容のまとめりが、記録に残す 評価の捉えと違う際は、相談 してください。	話すこと〔やり取り〕イ	/
	Unit7 Foreign Artists in Japan		話すこと〔やり取り〕イ	/
	Unit8 A Surprise Party		話すこと〔やり取り〕イ	/
	Unit9 Think Globally, Act Locally		話すこと〔やり取り〕イ	/
	Unit10 Winter Vacation		話すこと〔やり取り〕イ	/
Unit11 This Year's Memories	話すこと〔やり取り〕ア	/		
2	Unit0 My Spring Vacation	指導と評価の計画	記録に残す評価	
	Unit1 A Trip to Singapore	話すこと〔やり取り〕イ	話すこと〔やり取り〕イ	◎
	Unit2 Food Travels around the World	書くこと イ	書くこと イ	◎
	Unit3 My Future Job	話すこと〔発表〕イ	話すこと〔発表〕イ	◎
	Unit4 Homestay in the United States	話すこと〔やり取り〕イ	話すこと〔やり取り〕イ	◎
	Unit5 Universal Design	話すこと〔発表〕イ	話すこと〔発表〕イ	◎
	Unit6 Research Your Topic	話すこと〔発表〕イ	話すこと〔やり取り〕イ	○
	Unit7 World Heritage Sites	話すこと〔発表〕イ	話すこと〔発表〕ア	○
3	Unit0 Three Interesting Facts about Languages	指導と評価の計画	記録に残す評価	
	Unit1 Sports for Everyone	話すこと〔発表〕ア	話すこと〔やり取り〕ア	◎
	Unit2 Haiku in English	話すこと〔やり取り〕ア	話すこと〔やり取り〕イ	○
	Unit3 Animals on the Red List	書くこと ウ	書くこと イ	○
	Unit4 Be Prepared and Work Together	話すこと〔やり取り〕ウ	話すこと〔発表〕ウ	◎
	Unit5 A Legacy for Peace	話すこと〔発表〕ウ	話すこと〔発表〕ウ	◎
	Unit6 Beyond Borders	話すこと〔発表〕ウ	話すこと〔発表〕ウ	◎

期末テスト又は前期 中間テスト 「知識・技能」「思考・判断表現」問題作成について

<R3 の提案より>

	聞く	読む	話す [やり取り]	話す [発表]	書く
知識・技能	中間/期末テスト	中間/期末テスト	パフォーマンステスト 記録に残す評価	パフォーマンステスト 記録に残す評価	パフォーマンステスト 中間/期末テスト 記録に残す評価
	①	⑤	⑨	⑪	⑬
思考・判断・表現	パフォーマンステスト 中間/期末テスト	パフォーマンステスト 中間/期末テスト	パフォーマンステスト 記録に残す評価	パフォーマンステスト 記録に残す評価	パフォーマンステスト 中間/期末テスト 記録に残す評価
	②③④	⑥⑦⑧	⑩	⑫	⑭
主体的に学習に 取り組む態度	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト	パフォーマンステスト 記録に残す評価	パフォーマンステスト 記録に残す評価	パフォーマンステスト 記録に残す評価 中間/期末テスト
	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度	言語活動で 表出された態度

- ・「聞くこと」は、日常的・社会的な話題について、①「話されている英語の意味そのもの」の理解②「必要な情報を聞き取る」③「概要を捉える」④「要点を捉える」の4つの視点をもって問題作成及び評価をする。
- ・「読むこと」は、日常的・社会的な話題について、⑤「書かれている英語の意味そのもの」の理解⑥「必要な情報を読み取る」⑦「概要を捉える」⑧「要点を捉える」の4つの視点をもって問題作成及び評価をする。
- ・「話すこと [やり取り]」は、「即興で伝え合う」「相手の質問に答える」「自分の考えや気持ちを伝え合う」の3つの視点をもって問題を作成し、生徒の⑨「英語使用の正確さ」(どのように表現したか)、⑩「表現内容の適切さ」(どんなことを表現したか)で評価する。
- ・「話すこと [発表]」は、「即興で話す」「相手の質問に答える」「自分の考えや気持ちを伝え合う」の3つの視点をもって問題を作成し、生徒の⑪「英語使用の正確さ」(どのように表現したか)、⑫「表現内容の適切さ」(どんなことを表現したか)で評価する。
- ・「書くこと」は、「正確に書く」「まとまりのある文章を書く」「考えたことや感じたことと、その理由を書く」の3つの視点をもって問題を作成し、生徒の⑬「英語使用の正確さ」(どのように表現したか)、⑭「表現内容の適切さ」(どんなことを表現したか)で評価する。

表の太い線で囲った部分について、定期テスト問題を提案します。「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の問題を作成します。ways.57,58,59では定期テストの形式での提案を行いました。今回は、問題を各領域で3問提案し、問題作成の意図を記述するようにします。理由は、なぜこの問題が「知識・技能」または「思考・判断・表現」を測るものになるのか、という意味が読み手に伝わってこそ、岐阜県の英語教育自体が、学習指導要領を具現することになると考えたからです。提案された問題のみを見るのではなく、その意図を浸透させていくことが、各校で生徒の実態に応じてアレンジできるようになると思います。

「聞くこと」「知識・技能」を測る問題（枠）

<問題作成時における考え方>

【聞くことにおける知識・技能問題の作成について】

ターゲットとなる文法を使った文の聞き取りが主になるように聞き取る問題を作成します。目的・場面・状況の設定は必ずしも必要ではありません。

「対象学年：1年生」

フォント：UD デジタル教科書体 NP-B 10.5p

【問題1】

これから放送する英語の対話文を聞いて、質問に対する答えとして最も適しているものを1～4の中から1つ選びなさい。

(1) (友達同士の会話で)

フォント：UD デジタル教科書体 NP-R 10.5p

1 I got it last April. 2 I go to school by bicycle. 3 The black one is. 4 I like your bicycle.

<スクリプト>

(1) Man: My bicycle is over there.

フォント：UD デジタル教科書体 NP-B 10.5p

Woman: I see two bicycles. Which one is yours?

(2) …

<解答> (1) 3 (2)

フォント：UD デジタル教科書体 NP-B 10.5p

【問題作成の意図】

【知識】 which や whose などの疑問詞で始まる疑問文の意味や構造を理解している。

【技能】 疑問詞で始まる疑問文の意味や構造の理解を基に、日常的な話題の対話を聞き取る技能を身に付けている。

質問文に使われる疑問詞から判断して、正しい応答文が選択できるか判断する問題で、知識・技能を測る。

枠の上部にあるように、聞くことにおける「知識・技能」を測る問題は、ターゲットとなる文法を使った英文の聞き取りが主になるように聞き取る問題を作成します。そして問題作成の意図には、【知識】【技能】について明記します。これにつきましては、「指導と評価の計画」を基に記述するようにします。こうした考えの基、問題作成を行うことで、指導と評価の一体化をより意識することを意図しています。

【問題2】

<スクリプト>

<解答>

【問題作成の意図】

【問題3】

<スクリプト>

<解答>

【問題作成の意図】

2～3問程度作成することで、3つの問題形式について提案することができます。これらの問題作成の意図を広めていくことで、指導と評価の一体化具現に向けて問題の作成をしていきます。

「聞くこと」『思考・判断・表現』を測る問題（枠）

<問題作成時における考え方>

【聞くことにおける「思考・判断・表現」問題の作成について】

必要な情報、概要、要点を捉えられるかどうか評価する問題を作成する。単元等で扱った言語材料を必ずしも使用する必要はありません。「目的・場面・状況」を提示するようにします。

<聞き取ること（捉えること）及び設定し得る状況>

必要な情報	アナウンス、ラジオやテレビの放送等
概要	授業、講演、アナウンス、動画、対話、電話の会話等
要点	ボイスメモ、スピーチ、ディスカッション、ディベート等

指示文での目的・場面・状況を設定する際は例えば、「明日の天気予報を聞き取りなさい」だけでなく、「天気予報を聞いて、何を持っていくとよいか選りなさい」というように、生徒に思考・判断する場を与えるようにします。

「対象学年：2年生」

【問題1】

あなたは問題文中の（ ）内の場所にいます。アナウンスが聞こえてくるので、何について話されているのかを聞き取り、ア～ウの中から適するものを1つ選びなさい。

(1) (あなたはデパートにいます)

ア 開催中のセールについて イ 特別展示について ウ 新しい売り場について

(2) …

<スクリプト>

(1) Thank you for visiting Mago today. We are having sales this week. You can get all the clothes and caps for half the price. Also, you can get new bags and suitcases at WORLD's at special prices.

(2) …

<解答>

(1) ア

【問題作成の意図】

【思・判・表】 どんなお知らせがあるかを把握するために、店などのアナウンスを聞いて、概要を捉えている。アナウンス全体を聞いて、何について話されているのかを捉える。細かな情報を捉えるのではなく、全体として話されている話題を捉える問題なので、未習の言語材料が含まれてもよいことにする。

「読むこと」『知識・技能』を測る問題（枠）

<問題作成時における考え方>

【読むことにおける「知識・技能」問題の作成について】

単元等で扱った言語材料を使用したまとまりのある英文を読んで、その内容を捉える問題を作成します。ターゲットとなる英文を読み取る問題を作成します。

「対象学年：3年生」

【問題1】

クラスメートが書いた自己紹介文の一部を読んで、例を参考に日本語でまとめなさい。

(例) Mayの自己紹介文: I like science. I want to be a scientist in the future.

メイは科学が好き。[将来は科学者になりたいと思っている]。

Akiraの自己紹介文: My dream is to become a professional baseball player. I've been practicing baseball every day for three years.

晶の夢はプロ野球選手になること。

(1) []。

<解答例>

(1) 3年間毎日野球の練習を続けている。

【問題作成の意図】

[知識] 現在完了形や現在完了進行形の特徴やきまりを理解している。

[技能] 現在完了形や現在完了進行形の特徴やきまりの理解を基に、趣味や夢について書かれた英文を読み取る技能を身に付けている。

2文程度の英文を読んで、内容が理解できるか評価する問題を作成する。同じ単元や前後の単元で扱われている言語材料についても作成し、一つの大問に5問の問題を配置する。

「読むこと」『思考・判断・表現』を測る問題（枠）

<問題作成時における考え方>

【読むことにおける「思考・判断・表現」問題の作成について】

英文を読んで、必要な情報、概要、要点を捉える問題を作成します。単元等で扱った言語材料を必ずしも使用する必要はありません。目的・場面・状況を指示文や問題文の中に示します。

<読み取ること（捉えること）及び設定し得る状況>

必要な情報	広告、パンフレット、予定表、手紙、電子メール、メモ、新聞や雑誌の情報欄、ウェブサイト、掲示、書籍、取扱説明書等
概要	日記、SNS、ニュース原稿、対話を記録したもの、時系列で書かれた短い説明、意見文、エッセイ、物語等
要点	スピーチ原稿、ディベート原稿、レポート、SNS、社会的な話題に対する説明文、意見文、手紙、電子メール等

「対象学年：3年生」

【問題Ⅰ】

あなたは動物園を訪れています。来週も訪れる予定ですが、現在、その動物園で特別なイベントを行っているかホームページで確認をしているところです。来週訪れる時にできることをア～カの中から2つ選びなさい。

NEWS(Monday, May 5)

Some animals in the World Zoo babies now. Leo, a female lion, had two babies on April 28. We are planning to show them to you. We will tell you on this website next week when we can show them. Please look forward to meeting them in two or three weeks. Dumbo, an elephant, also had a baby elephant. You can see Dumbo and her baby between 1 p.m and 3 p.m from this Saturday.

Three kinds of new animals are coming to the World Zoo this week. One is a spider monkey. It has long arms and legs like a spider. Another is a blue monkey. It has long arms and legs like a spider. Another is a blue monkey. It is one of the most unique monkeys, but the baby color is not blue. The other is a white tiger. It is only four months old. You can see the spider monkey from May 10, the blue monkey from May 20, and the white tiger from May 25.

Our night safari program is now closed. We are preparing for new night safari programs.

ア ライオンの赤ちゃんを見ることができ。

イ ゾウの赤ちゃんを見ることができ。

ウ スパイダーモンキーを見ることができ。

エ ブルーモンキーを見ることができ。

オ ホワイトタイガーを見ることができ。

カ ナイトサファリに参加することができ。

<解答>

イ, ウ

【問題作成の意図】

[思・判・表] 旅行で訪れる場所の知識を得るために、パンフレットや記事などを読んで自分の必要な情報を捉えている。

必要な情報を捉える問題では、指示文で読み手が求めている情報を示してから、それに合った英文を読み取ることができるかどうか評価する問題を作成した。

「書くこと」「知識・技能」を測る問題（枠）

<問題作成時における考え方>

[書くことにおける「知識・技能」問題の作成について]

「知識」では、言語材料の理解について評価する問題を作成します。「技能」では、実際に英文を書く場を設定し、正確さを測る問題を作成します。

「対象学年：1年生」

[問題1]

次の（ ）内の動詞を正しい形に直して書きなさい。

(1) My father is a teacher. He (teach) math at a junior high school.

(2) …

…

<解答>

(1) teaches (2) …

[問題作成の意図]

[知] 第3者について説明したり質問したりする際の文の特徴やきまりを理解している。

主語が3人称で現在形の文を正しく書くためには、主語が何のときに動詞をどうするのか、疑問文や否定文のときはどうするのかという知識が必要である。これらの知識の中から動詞のsのつけ方についてその知識を評価する問題を作成した。

「対象学年：3年生」

[問題1]

あなたは外国の友達からいくつかのことを質問されました。次の相手からの質問に返信する文を、それぞれ1文で自由に書きなさい。

(1) もしあなたが私だったら、日本のどこを訪れますか。

(2) …

<解答>

(1) If I had a lot of money, I would travel in the world.

(2) …

<採点の基準>

2点…正しく書けている。 1点…仮定法過去の形になっているが、表現に誤りが見られる。

0点…仮定法過去の形になっていない。

[問題作成の意図]

[知識] 基本的な仮定法の特徴やきまりについて理解している。

[技能] 自分の願望などについて、仮定法を用いて正しく書く技能を身に付けている。

実際のコミュニケーションの場面となり得る状況を与えることで、正しく知識と技能を活用する問題を作成した。

「書くこと」『思考・判断・表現』を測る問題（枠）

<問題作成時における考え方>

[書くことにおける「思考・判断・表現」問題の作成について]

文章の正確さ、適切さ、条件に合って書いているかということ評価できる問題を作成します。

「対象学年：3年生」

[問題1]

あなたは友達Helenから電子メールを受け取りました。メールの内容を読んで、Helenに30語以上で返事を書きなさい。その際、あなたが考えたこと、そう考えた理由や経験も述べなさい。

Hi

How are you doing?

I'm angry with my classmate Maki today.

We were supposed to meet at the movie theater at 9. I went there at the appointed time, but she wasn't there. I called her, but she didn't answer the phone. She finally appeared at about 10. When she came to me, she just said, "Hi." She didn't apologize to me! I got very angry and said, "I don't want to be with you today." She said something to me, but I left. What do you think?

Your friend

Helen

<解答例>

I can understand your feeling, but you should ask her "Why were you late?". I think you and Helen misunderstood. I had a same experience to you. I didn't ask my friend about the reason at that time. Maybe Helen thought the appointed time was at 10. You should call her!

[問題作成の意図]

[思・判・表] Helenに適切なアドバイスを与えるために、電子メールを読んで、感じたことや自分の意見を整理して、英文を書いている。

[態度] Helenに適切なアドバイスを与えるために、電子メールを読んで、感じたことや自分の意見を整理して、英文を書こうとしている。

英文を読んで、感じたこととその理由を、経験を基に書くというまとまりのある英文を書くことができるか評価する問題を作成した。英文だけでなく指示文の条件を理解し、適切な応答ができることで、思考・判断・表現の能力が身に付いていると評価する。

(参考文献：新3観点の学習評価完全ガイドブック 明治図書 著者：本多敏幸)

問題は、ways57,58,59に提案してあるものを、以上に記述した観点で改良したり新しく作成したりして、定期テストにおける問題を提案できるようにします。

事業部活動

事業部長 石黒 崇人

1. 令和4年度活動方針

◎岐阜県小中学校英語研究部会事業部の活動を創造的・発展的に推進する

1. 令和4年度の岐阜県中学校英語弁論大会及び中学校英語スピーチコンテスト（地区大会）が円滑に進行できるよう企画・運営していく。
※新型コロナウイルスの感染状況によっては、スピーチ審査会の計画及び開催をする。
2. 教科書準拠のワークブックを現場の声や新学習指導要領の内容を踏まえ、岐阜県版として特色あるものにしていく。
3. 各郡市の代議員との連携を深め、事業部の活動へ生かしていく。

2. 活動内容

(1) 第42回岐阜県中学校英語弁論大会（岐阜県大会）

県大会の内容及び実績は、Ways of Teaching Englishで確認していただきたい。これまでの岐阜県英語科の諸先輩方の努力によって、岐阜県中学校英語弁論大会は、多くの中学生が参加し、年々その質も高まってきた。今年度もコロナウィルスを考慮した開催方法を検討し、第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会（全国大会）をめざして、各地区大会、県大会の順番で企画・運営していき、岐阜県内の中学生の英語力向上の機会としていきたい。

第42回岐阜県中学校英語弁論大会について

・企画・運営：事業部（事業部長、事業副部長、事業部常任委員）が中心となる。
→本部事務局員、岐阜地区の各郡市の代議員、岐阜市教育研究会役員、要請により企画・運営の補助を行う。

- ・日 時：令和4年9月24日（土）
- ・会 場：岐阜女子大学（〒501-2592 岐阜市太郎丸80番地）
- ・参加資格：全国大会（第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会岐阜県大会）の参加資格に準ずる。
- ・参加人数：6地区大会で選出された優秀なスピーカー30名

※高円宮杯が各都道府県からの出場者を3名となっているが、各地区から県大会への上場者については、昨年度と同様にしていきたい。

<県大会参加者30名の決め方・内訳>

⇒各地区の参加者数が、6地区大会の総参加者数に占める割合に応じて、県大会への上場人数を決定する。小数点は、四捨五入して人数を決める。

【例】美濃地区大会の参加者が21名で、全体の参加者が100名だった場合

美濃地区の参加者数は、全体の21%なので、

$30（人） \times 0.21 = 6.3（人）$ ⇒県大会への上場者は、四捨五入6人となる。

※ただし、平成25年度より「地区代表は、1校から3名までとする。」という規定を守ることに。

<最優秀賞者の選出方法について>

⇒参加者30名を、6名ずつの5つのブロックに分け、予選会を行う。それぞれのブロックから、2名の優秀なスピーカーを選出する。5ブロック×2名＝10名で、決勝を行う。10名の中から3名の最優秀賞と7名の優秀賞を決定する。

⇒最優秀賞3名は、全国大会（第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会岐阜県大会）へ出場する。

(2) 第42回岐阜県中学校英語弁論大会（地区大会）

地区大会の運営は、事業部を中心に事業部常任委員の各地区担当が主となり進めていく。また、会の企画・運営にあたっては、郡市代議員の先生方の力を借りながら、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、地区大会がスムーズに運営できるようにしていく。

＜令和4年度 各地区日程と会場＞※令和3年度はビデオ審査を実施した。

地区	日時	会場
岐阜	8月17日（水）	岐阜県総合教育センター，OKBふれあい会館
西濃	8月18日（木）	大垣市スイトピアセンター
美濃	8月18日（木）	武芸川中学校
可茂	8月22日（月）	広見地区センター
東農	8月18日（木）	瑞浪市総合文化センター
飛騨	8月19日（金）	高山市教育研究所・一之宮公民館

令和4年度 事業部常任委員 各地区担当

地区	各地区担当	所属校	連絡先・メールアドレス
岐阜	村地 巧美	岐阜市立岐阜清流中学校	【電話】058-231-6248 gichu01@seiryu-j.gifu-gif.ed.jp
西濃	野村 久和	大垣市立東中学校	【電話】0584-78-3329 touchu@ogaki-city.ed.jp
美濃	永田 貴大	郡上市立八幡中学校	【電話】0575-67-1010 hachiman-chu@gujo.ed.jp
可茂	若山 圭介	可児市・御嵩町中学校 組合立共和中学校	【電話】0574-67-2105 kyowa-jh@mail.town.mitake.gifu.jp
東濃	土屋 智裕	恵那市立恵那東中学校	【電話】0573-25-5261 enahigashi-j@ena-gif.ed.jp
飛騨	相津 嘉文	高山市立国府中学校	【電話】0577-72-2044 y.aizu@edu.city.takayama.gifu.jp

(3) スピーチコンテスト地区大会，県大会の在り方

コロナウィルスを考慮し，スピーチコンテストの大会運営面で工夫していく必要があると考える。昨年度は，常任委員の先生方のご努力下，独自に「岐阜県中学生英語スピーチ審査会」を行うことができた。今後も大会の運営方法等，様々な点において検討を重ねていき，より安全で円滑な進行ができるような運営・日程調整をしていきたいと考える。

【地区大会及び県大会のコロナウィルス対応について】

- ・参加者1名につき，引率者1名まで
 - ・予選会等は，密にならないような運営
 - ・当日のマスク着用，検温，消毒の徹底
- ⇒参加者及び引率者の名簿の記入
- ・審査室は，審査員，スピーカー，引率者1名まで入室可

※感染状況及び高円宮杯の動向によっては，映像審査に変更する可能性もある。

(4) 岐阜県版ワークブックの改善・改訂

現在、岐阜県版として作成しているワークブック等は、下記のとおりである。

<input type="checkbox"/> ニュー・アプローチ（本誌のみ）	【全学年】	（各学年 定価 640円 税込）
リスニングテスト（付録）	【全学年】	（各学年 定価 50円 税込）

3. 活動計画（案）

4月	・各地区事業部の引き継ぎ（主に中学生英語スピーチコンテストの役割など）
5月	◇第1回代議員会・研究協議員会 ・岐阜県中学校英語弁論大会及び中学生英語スピーチコンテスト要項の最終確認及び配布 ・各郡市教育研究会研究テーマ等の取りまとめ ・岐阜県中学校英語弁論大会の開催要項等配布
6月	◇第2回研究協議員会 ・岐阜県版ワークブックの検討／中学生英語スピーチコンテストについて検討や確認等
7月	◇中学生英語スピーチコンテスト準備委員会（岐阜，西濃，美濃，可茂，東濃，飛騨）
8月	○中学生英語スピーチコンテスト（岐阜，西濃，美濃，可茂，東濃，飛騨） ◇岐阜県中学校英語弁論大会準備委員会（大会の実行委員は，全員参加） ・岐阜県中学校英語弁論大会打ち合わせなど
9月	○第42回岐阜県中学校英語弁論大会
10月	◇第3回研究協議員会 ・中学生英語スピーチコンテスト，岐阜県中学校英語弁論大会の反省 →来年度の在り方を検討 <input type="checkbox"/> 第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会 予選（10/13）赤坂区民ホール ※県代表は1校から1名とし，同一校で入賞の場合，上位者を中央大会出場者とする。
11月	<input type="checkbox"/> 第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会 決勝（11/18）よみうりホール
12月	◇第4回研究協議員会 ・岐阜県中学校英語弁論大会・中学生英語スピーチコンテストの引き継ぎ事項の確認，来年度の要項作成 ・来年度の中学生英語スピーチコンテストについて確認，岐阜県版ワークブックの見直し ・Ways of Teaching English 原稿確認
2月	◇第2回代議員会 ・岐阜県中学校英語弁論大会及び中学生英語スピーチコンテストの次年度の方向確認 ・岐阜県版ワークブック等の採用案内等の配布

4. 各郡市の代議員の役割と事業部との連携について

連携体制：【事業部】⇔【各地区常任委員】⇔【各郡市代議員】⇔【各郡市教育研究会】

各郡市代議員との連携による事業活動

- ・岐阜県版ワークブック等の採用状況把握
- ・Ways of Teaching English の原稿依頼・回収等

（各郡市研究会の研究テーマ及び，各郡市の代議員，研究協議員の報告）

各郡市教育研究会において各郡市代議員が主体となって実施する事業活動

<前期>

- ・中学生英語スピーチコンテスト以外に，独自の市町村大会開催の有無について確認
- ・岐阜県版ワークブック等の採用状況の確認，意見などの集約

<後期>

- ・岐阜県版ワークブックの採用状況や次年度へ向けた採用予定のワークブックの確認
- ・令和4年度中学生英語スピーチコンテストの要項作成

5. 添付資料

<過去5年間のスピーチコンテスト 参加生徒数の推移>

	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	県全体
H28	130	100	65	80	102	55	532
H29	119	106	51	63	75	65	479
H30	108	90	58	60	82	78	476
R1	87	63	50	64	83	54	401
R3	82	56	39	43	70	30	320

<過去5年間のスピーチコンテスト 参加中学校数の推移>

	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	県全体
H28	42	29	19	23	37	22	172
H29	43	28	19	23	34	22	169
H30	46	28	19	22	34	22	171
R1	41	29	19	23	33	21	166
R3	36	23	19	18	33	18	147

<岐阜県中学生英語スピーチ審査会 参加者数>

※中学3年生対象：オープン参加型で実施

	岐阜地区	西濃地区	美濃地区	可茂地区	東濃地区	飛騨地区	県全体
R2	25	16	11	15	26	11	104

第42回岐阜県中学校英語弁論大会 開催要項（案）

《高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会岐阜県予選》

<目的>

国際性豊かな青少年を育てるために、国際語である英語を熟達させるとともに、広くその普及を図り、日本文化の発展ならびに国際親善に寄与する。また、岐阜県の中学生の英語力を向上させ、様々な地区の代表との交流を通して、自分の考えや主張を自信をもって発信したり、相手の考えや気持ちを相手の立場に立って受け止めたりすることができる生徒を育成する。

<主催>

・岐阜県教育委員会 ・岐阜県小中学校英語研究部会

<期日>

令和4年9月24日（土） 9：30～受付開始，10：00～12：30

<場所>

岐阜女子大学（〒501-2592 岐阜市太郎丸80番地）

<留意事項>

- ①地区大会での優秀者による選抜大会とする。ただし、地区代表は1校から3名までとする。
- ②県大会の上位3名が中央大会参加資格を得る。
※「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」の規定による。開催要項参照
- ③中央大会の参加資格を得た者は、10月13日（木）決勝大会予選，11月18日（金）に行われる決勝大会に出場する。
- ④弁論内容は、生徒自身の意見・主張を英語でまとめた未発表のものとする。ただし、今年度の高円宮杯関連大会で発表したものは、この限りではない。剽窃は、厳に禁止する。引用は、それと分かる表現により明示する。これらに違反した場合、失格とする。
- ⑤制限時間：5分(超過した場合は減点とする)
- ⑥新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用でスピーチを行う。
- ⑦気象警報やコロナ関係等に関わる宣言が発令され、参加型で実施が不可能と判断された場合は、令和3年度の方法にならない、ビデオ審査とする。

<参加資格>※参加資格は中央大会に準ずる。

《高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会の参加資格》

1. 日本の中学校またはそれに相当する学校に在籍する生徒で、校長が推薦した者。ただし、下記(a)～(d)に該当する者は参加できない。当該校長は、推薦の際、事実関係を確認の上、下記(a)～(d)に抵触しないことを証するものとする。
 - (a) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6か月以上、英語圏(*)に居住した者。
 - (b) 日本国内、海外を問わず、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で行っている学校を含む）に6か月以上在籍したことがある者。
 - (c) 保護者または同居親族に、英語を母語とする者もしくは英語圏(*)出身の者がいる場合。
 - (d) 過去に本大会の中央大会にて1位～3位に入賞した者。(*)「英語圏」とは、英語を(ア)第一言語、(イ)公用語、または(ウ)公用語に準ずる言語として使用する国・地域をいい、その一覧は、下記の高円宮杯ホームページを参照のこと。
<http://www.jnsafund.org>
2. 上記の条項に違反して出場した場合、失格とする。
3. 個別事案における参加資格の有無について、最終的な判断の権限は日本学生協会（JNSA）基金に帰属する。

※中央大会への参加資格を有しない生徒は、地区予選には出場できるが、県大会には出場できない。

<大会日程>

9月24日(土)				
受付	開会式	セミファイナル	ファイナル	表彰式・閉会式
9:30	10:00	11:00 11:20		12:30

※制服での参加とする。

※気象警報やコロナ関係等に関わる宣言が発令され、参集型で実施が不可能と判断された場合は、令和3年度の方法に従い、ビデオ審査とする。

<大会参加者>

※参加については、次の手順で手続きをする。教師または保護者が必ず引率するものとする。

1. 各地区の予選大会に出場し、優秀なスピーカーであると認められた30名。
(地区ごとの県大会出場人数は、各地区大会の参加人数による。地区大会の総参加者数に占める割合に応じて県大会への参加人数を決定する。)

〈例〉美濃地区大会の参加者が20名で、6地区大会の総参加者数が100名だった場合
⇒美濃地区の参加者数は全体の100分の20=20%なので、県大会への参加者数は、30人の20%の6人となる。

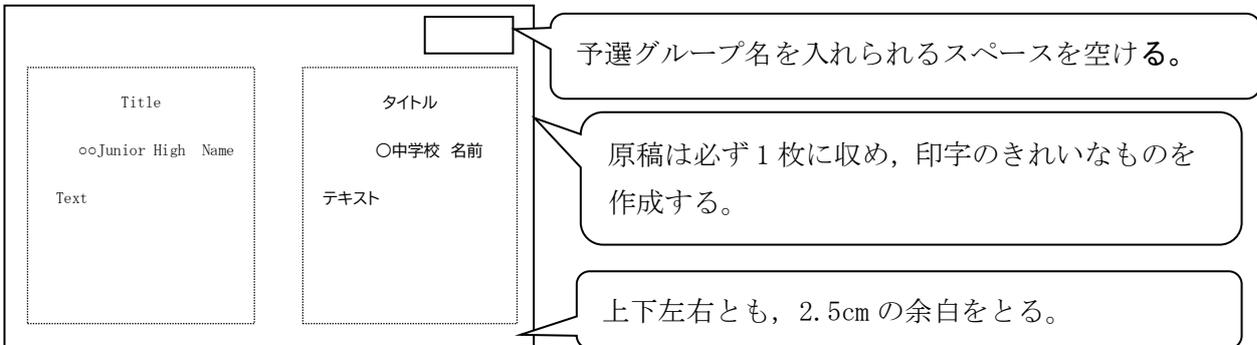
2. 高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会参加申込書(都道府県大会・中央大会共通)に弁論原稿とスピーチ動画DVDを添え、8月25日(木)必着で下記事務局まで送付する。(FAX, メール不可)
参加申込書(写真・校長印必要, 切手不要)と弁論原稿が届いた時点で、正式な参加の受け付けとする。
※弁論原稿の送付代は、自己負担でお願いします。

(注1) 参加申込書の記入事項は、必ず記入してください。
(緊急連絡先や学校Eメールアドレスなど)
(注2) 欠席が決まった場合は、必ず事務局まで連絡をお願いします。
(注3) 限られた時間の中で弁論大会を行います。時間内に終わるよう、各中学校で弁論の指導は、十分に行ってください。

提出先・問い合わせ先 (岐阜県中学校英語弁論大会事務局)

〒504-0843 岐阜県各務原市蘇原青雲町 1-10
TEL (058)-389-2283 FAX(058)-389-2284
E-mail sochu@he.mirai.ne.jp
各務原市立蘇原中学校 石黒崇人

3. 弁論原稿は指定された書式(A4横, 袋とじ。左に英文, 右に和文。7ポイント以上)で、



※ワード(アプリケーション)で清書する。

4. その他

- ◇審査方法…3つの観点（内容、英語力、表現）から審査する。特に、内容を重視する。
- ◇禁止事項
 - ・マイクなどの音声機器は、使用しない。
 - ・視覚に訴える道具の使用及び過度な演出・演技は禁止する。
 - ・演壇の前及び横に出てスピーチをすることは、原則禁止とする。ただし、身体的理由等でやむを得ない場合は考慮する。
- ◇参加者は、岐阜県中学校英語弁論大会への参加を通して、話す実践をします。したがって、中学校で学習した表現を活用し、ある程度聞き取れるスピーチが望ましいと思われます。もちろん、より正しい英文を志向し、JTEやALTがチェックを行うことは必要だと思いますが、話し手は、聞き手に伝えたいことを理解してもらえたいようにしたいものです。
- ◇参加者及び引率者は、会場内で必ずマスクを着用すること。

【高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会ホームページの記載事項】

（※必ず一度は、HPで確認をお願いします。）

□本大会の参加資格における「英語圏」とは、
英語を『1. 第一言語 2. 公用語 3. 公用語に準ずる言語』として使用する国・地域をいいます。

□具体的な国名・地域名は、下記をご覧ください。（50音順）

- ・アイルランド ・アメリカ合衆国 ・アンティグア・バーブーダ ・イスラエル国 ・インド
- ・ウガンダ共和国 ・英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）
- ・エチオピア連邦民主共和国 ・オーストラリア連邦 ・ガイアナ共和国 ・ガーナ共和国
- ・カナダ ・カメルーン共和国 ・ガンビア共和国 ・キプロス共和国 ・キリバス共和国
- ・クック諸島 ・グレナダ ・ケニア共和国 ・サウジアラビア王国 ・サモア独立国
- ・ザンビア共和国 ・シエラレオネ共和国 ・ジャマイカ
- ・シンガポール共和国 ・ジンバブエ共和国 ・スーダン共和国
- ・スリナム共和国 ・スリランカ民主社会主義共和国
- ・スワジランド王国 ・セーシェル共和国 ・セントクリストファー・ネイビス
- ・セントビンセント及びグレナディーン諸島 ・セントルシア ・ソマリア連邦共和国
- ・ソロモン諸島 ・タンザニア連合共和国 ・ツバル ・ドミニカ国
- ・トリニダード・トバゴ共和国 ・トンガ王国 ・ナイジェリア連邦共和国 ・ナウル共和国
- ・ナミビア共和国 ・ニウエ ・ニューージーランド ・パキスタン・イスラム共和国
- ・バハマ国 ・パプアニューギニア独立国 ・パラオ共和国 ・バルバドス
- ・東ティモール民主共和国 ・フィジー共和国 ・フィリピン共和国
- ・ブルネイ・ダルサラーム国 ・ベリーズ ・ボツワナ共和国 ・香港 ・マーシャル諸島共和国
- ・マラウイ共和国 ・マルタ共和国 ・マレーシア ・ミクロネシア連邦 ・南アフリカ共和国
- ・南スーダン共和国 ・モーリシャス共和国 ・ヨルダン・ハシェミット王国 ・リベリア共和国
- ・ルワンダ共和国 ・レソト王国 ・レバノン共和国

御不明な点がございましたら、高円宮杯事務局（電話：03-3217-8393）へ御相談ください。

研究部・事業部の昨年度の成果と活動計画案

主務：長瀬 友洋（関市立緑ヶ丘中学校）

【令和4年度の研究テーマ】

「できた・わかった」を実感しながら、

コミュニケーションに挑み続ける児童・生徒を育てる指導を求めて

～五領域における学習到達目標を明らかにし、

言語活動の中でその到達を実感させる指導・評価の一体化～

はじめに

昨年度も何度となく新型コロナウイルスの影響が、教育活動に大きな影響を与えた。それに伴い、学校現場では日常活動や行事を見直さざるを得ない状況となっている。岐阜県小中英研では、この影響を逆にチャンスと捉え、令和3年度の活動を見直し、以下の2点で新たな取組を始めた。

- ・Zoom のアカウント契約
- ・法人化のため顧問会計士との契約

Zoom のアカウント契約により、参集型の会議だけではなく、リモートでの会議を開催することができるようになった。また、スピーチコンテストや各地区主催による研究発表についてもリモートで開催することが可能となった。また、顧問会計士との契約については、専門家の方に相談することで会計に関わる業務を適正かつ、効率的に進めることができるようになった。

このように、新たな取組を行う一方でこれまで同様、先生方の実践のヒントとなりうる内容になるよう研究を進めてきた。以下は、令和3年度の活動についての具体的な報告である。

1 研究部の活動

小学校部会

令和元年度に、「Let's Try! 伝え合う活動部会」として、小学校3・4学年で使用する外国語活動の副教材である Let's Try! の指導案検討を行う部会を立ち上げた。これまで小学校部会で大切にしてきた「考えながら話す」という考え方を引き継ぎ、児童にとって効果的な指導過程の在り方について検討を行った。令和2年度は、新学習指導要領全面実施の年となり、高学年では教科書を使用しての授業が始まった。現在、岐阜県内では地区により異なる教科書を採択しており、県内で使用する3社ともに研究することが望ましいが、研究員の先生方の勤務地域の関係から東京書籍の NEW HORIZON Elementary を取り上げて研究することとした。（ただし、扱う単元はその他2社と題材が同じものとした。）

令和3年度は、令和2年度までに作成した指導案を土台に、指導計画の改善を行った。小学校においては、英

語が専門ではない学級担任が指導者であることは多くある。その際に、指示の出し方や活動方法、視覚教材やワークシートの扱い方に戸惑うことは多い。そのため、ICT の効果的な活用方法、適切な評価の在り方、コロナ禍における言語活動の持ち方についても含めて、効果的な指導方法について検討し、資料の作成を行った。

中学校部会

令和3年度から学習指導要領(平成 29 年告示)が全面実施された。これにより、教師が「生徒たちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められ、「指導と評価の一体化」の必要性が一層明確になった。そこで、3年計画(令和3~5年度)で全 Unit と Lesson(Stage Activity や Project も含む)の『指導と評価の計画』と「パフォーマンステスト」を作成することにした。また、研究の方向を「生徒の可能性を引き出し、伸ばす英語教育の実現」と設定し、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』(R2.3)を参考に研究を進めた。

(1) 指導と評価の計画

<p>1) 前文 1ページ目</p> <p>・内容のまとめ(学習指導要領の根拠)</p> <p>①五領域における学年の目標</p> <p>☞学習到達目標[小中英研令和2年度作成]より</p> <p>②単元の目標</p> <p>③単元の評価規準</p> <p>☞言語活動を行う目的や場面、状況を明記</p> <p>④主な言語活動における必要な力と留意点</p> <p>☞令和2年度の研究[Ways No.6]「単元構想図」内の記載内容参考より</p>	<p>2) 単元指導計画 2ページ目以降</p> <p>⑤展開案を含む単元指導計画</p> <p>・<u>主な言語活動</u>で意図する2つの視点</p> <p>☞「個別最適な学び」 2つの学びの具体や一体的な扱い方などを念頭に置き、言語活動の具体を提案</p> <p>☞「協働的な学び」</p> <p>・<u>備考欄</u>で示す主たる内容</p> <p>☞小学校における学習内容とのつながり(●)</p> <p>※1年生の単元のみ記載</p> <p>☞ICT 活用(◆)</p> <p>・<u>評価する観点</u>(知・思・態)の記載</p>
---	---

(2) 単元パフォーマンステスト

単元(Unit/Lesson)の終末時に実施することを想定したパフォーマンステストを作成した。「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」と「書くこと」の3つの領域における内容のまとめを明記し、「採点の基準」や「生徒のアウトプット例」を記載した。

2 事業部の活動

令和3年度は、コロナ禍の中、昨年度の経験を活かし安全かつ適正なスピーチコンテストの開催を模索した。これまでのように参集して行う形とは違い、参加校の先生方にはDVDの準備等、御理解と御協力いただきました。また、審査員の先生や各地区常任委員の先生方にも開催方法の変更に柔軟に対応してくださったおかげで会を終えることができた。今後に向けても、開催についてのマニュアル作成を行ったり、改善点をあげたりしながら、次年度に繋げていきたいと考えている。

令和4年度は、緊急時の対応についてマニュアル作成や申込や原稿集のデジタル化を検討していきたい。ま

た、オンラインで行った場合の参加生徒へのフィードバックも行っていきたい。

3 岐阜県小中学校英語研究部会 東濃大会について

開催日程:令和5年10月~11月(予定)

進捗状況:東濃5市全てで授業公開と分科会を行う。研究テーマを5つに分けて、各市が一つのテーマを担う。

現在、授業者が決まり、指導案を作成中。秋までに指導案を完成させ、実際に授業を行う予定。

4 今年度(令和4年度)の活動計画(案)

4月16日(土) 第1回常任委員会及び第1回G長会(一部リモート開催)

5月21日(土) 第1回代議員会(リモート開催)・研究協議員会

6月21日(火) 第2回研究協議員会

8月 各地区でのスピーチコンテスト

17日(水)岐阜地区 18日(木)西濃地区 18日(木)美濃地区
22日(月)可茂地区 18日(木)東濃地区 19日(金)飛騨地区

8月27日(土) 英語弁論大会準備委員会

9月24日(土) 第42回岐阜県中学校英語弁論大会 予備日:10月1日(土)

※会場は、岐阜女子大学です。

10月25日(火) 第3回研究協議員会

12月10日(土) 第4回研究協議員会

1月7日(土) 第2回G長会

2月24日(金) 第2回代議員会(リモート開催)

※ スピーチコンテスト・英語弁論大会以外の日程は、現段階での案ですので、来年度に向けて変更の可能性があります。

※ 4月に常任委員会を開き、令和4年度の研究テーマと研究内容、事業部の活動について、正式に決定します。